

Andrei Iancu 長官の IAM 誌との対談概要

2018 年 3 月 21 日

JETRO NY 知的財産部

柳澤、笠原

USPTO の Andrei Iancu 長官は IAM 誌との対談¹で「米国特許制度は予見性を高める必要がある」と述べ、さらに、長官として取り組む課題として①発明者を経済成長の推進力として認識し、イノベーションコミュニティを支援すること、②特許適格性に関する不確実性を低減させること、③付与後レビュー制度を改善すること、④審査プロセスを改善することなどを挙げた。

対談の中で Iancu 長官は「米国特許制度は近年の立法活動、判決および USPTO の施策によって大きく変化したため、バランスがとれたアプローチで制度の予見性を高め、制度を落ち着かせることが大切と考える」と述べた。また、知的財産コミュニティで特許審判部 (PTAB) が問題視されていることに関して「PTAB に対する非難には正当なものと不当なものがあり、当事者系レビュー (IPR) のクレーム補正プロセスに対する非難は正当な非難と受け止めている。」などとしている。

(以上)

¹ <http://www.iam-media.com/blog/Detail.aspx?g=cc3366ca-9469-4cb0-ab11-4f4e5bac4f0e>